

自然（蟻・ダンゴムシ・あさがお）

Picoナーサリ久我山 かぜぐみ（2歳児）

# 導入

自然に対するの興味関心が高く、中でもダンゴムシ、蟻、花を対象とした探究活動は夢中になって行っています。

それぞれ適した図鑑や絵本を導入に取り入れるなかで、より興味関心を高め、子どもたちの言葉を汲み取りながら今回のプログラムに繋げていきました。



# チーム蟻

- ▶ 絵本「はっばのおうち」に登場する蟻がパンを運んでいることに気付いた子どもたち。
- ▶ どこに運ぶのか興味を持ち、見に行ってみようと
- ▶ 公園へ繰り出した。

ついていってみよう



# スケジュール

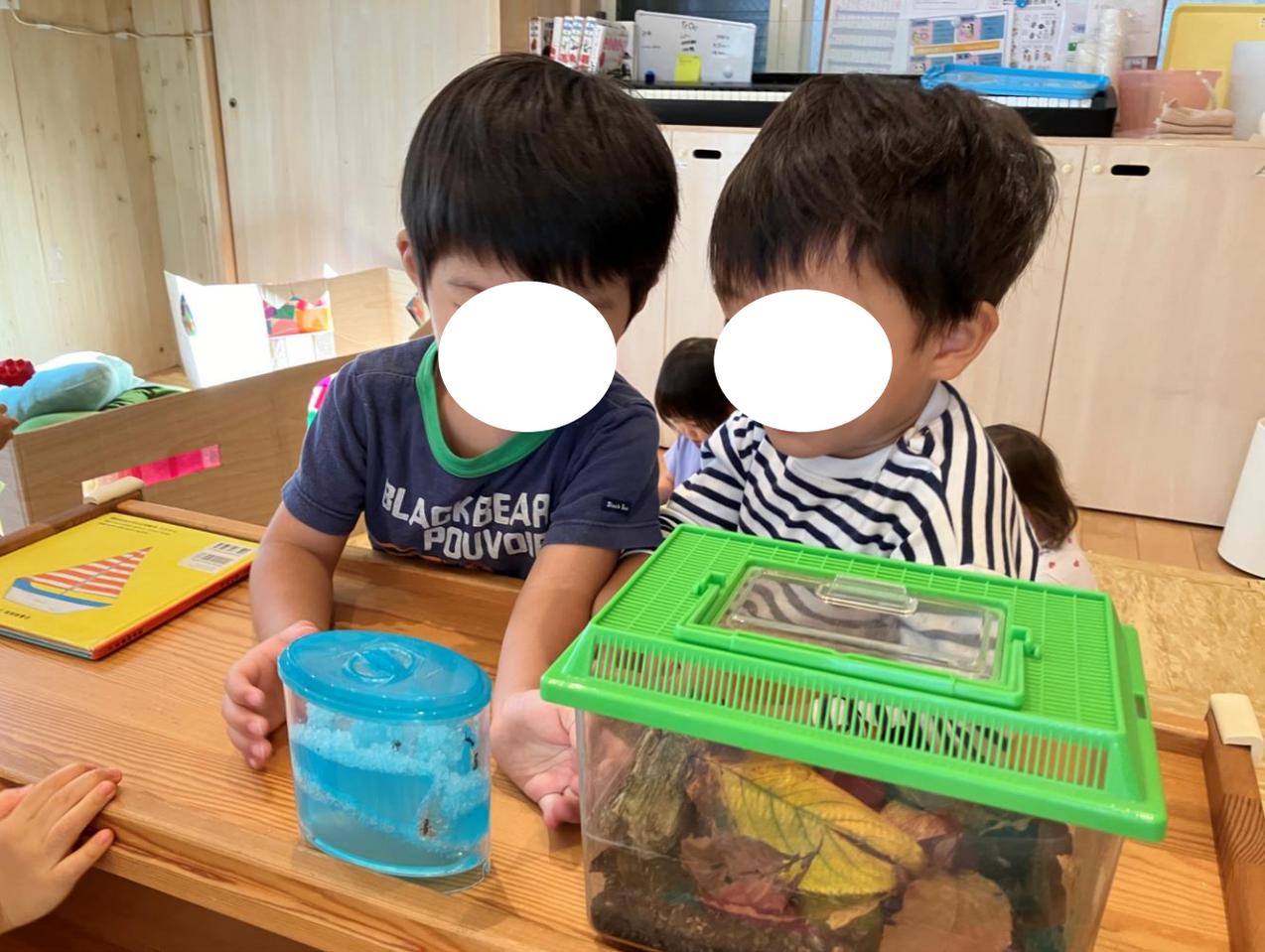
7月 アリの巣キットを購入  
近隣の公園の蟻を観察し、採取

8月～9月 観察

10～11月 顕微鏡にて生態を確認、考察

# 準備物

- ・絵本「はっばのおうち」
- ・アリの巣キット
- ・顕微鏡
- ・プロジェクター
- ・スクリーン



## チーム蟻 8～9月

蟻を観察し、巣の作り始めから経過を観察する。  
コロニーは出来ていないが、道が出来始めたことに嬉しそうにする。

# チーム 蟻

10・11月

- 10月中旬コロニーが出来ていることに気が付き、蟻が移動していると不思議そうにじっと観察する。
- 顕微鏡とプロジェクターを使って再観察し、脚や触覚が何本あるかなど数え、子ども自身との違いに気が付く。
- ダンゴ虫同様に蟻が死んでいることに気が付き、死因を考えた結果、室温や気温が原因ではないかという答え、生きやすい環境があることを学んだ。



## まとめ

子どもたちが進級当初より、興味を示していた自然物の中でも蟻についての生態や巣について知るきっかけともなったがそれぞれに過ぎしやすい場所があること、命あるものは大切にすること。大切にすることは具体的にどうゆうことを指すのかを視覚的にも感覚的にも知ることにつながった。また、探求心も養うことと同時に子どもたちの根本的な心の土台を育むこととなった良い時間となっていた。自然物を日常的に取り入れ、実際に体験し観察してみることで子どもたちの思いやりの心を今後も育むきっかけとなるよう関わっていく。

# チームダンゴムシ



どんなごはん  
たべるのかな



- 自然に対するの興味関心が高く、ダンゴムシを対象とした探究活動は夢中になって行っていた。
- 動いているダンゴムシを捕まえていることが多かったが、生態について知らないことが多かった。そこで、生態について知れるよう絵本を用いると興味を示し食べ物や生活場所等について理解し始めていた。実際に園で飼育する事を保育者から提案されると意欲を持つ。絵本「ごはんだよ だんごむし」の中でダンゴムシに様々なご飯をあげていた。子どもたちにどんなものを食べるのか問いかけると、「りんご、葉っぱ、納豆」等様々な食べ物を挙げる。実際に何を食べるのか見れるようダンゴムシを探し、食べそうな葉っぱなどを一緒に入れた。

# スケジュール

- 6月 散歩先にてダンゴムシを探し、捕まえたものを虫かごに入れる。
- 7月 ご飯を入れるが、死んでしまった為再度捕まえ飼育する。
- ・再度飼育を始め、観察したり散歩先で落ち葉を集めご飯を用意する。
- 10月 書画カメラを使用しダンゴムシの後ろや顔を拡大し生態について知る。
- ・ダンゴムシがなぜ死んでしまったのか、話し合う。

## 準備物

- ・絵本「ごはんだよだんごむし」を絵本コーナーに置く。
- ・虫かごに土やダンゴムシを入れて飼育する。普段から見やすいような場所に設定しダンゴムシの様子を観察できるようにした。

# チームダンゴムシ 8～9月



- デッキで実ったいちごを発見するとダンゴムシにあげようと嬉しそうにする子どもたち。
- イチゴは食べる様子になかったため、きゅうりをあげてみる。
- 中々食べない様子を見て、散歩先で葉を持って虫かごに入れるもダンゴムシ死去。



## チームダンゴムシ

10月

ほとんどのダンゴムシが死んでしまった為再度公園でダンゴムシを探した。

以前はダンゴムシのみを拾っていたが、ダンゴムシが食べるご飯（落ち葉）を探したり隠れられるように大きい木の枝を見つけたりする姿があった。

また、探す場所も落ち葉の下や暗い場所等を探しておりダンゴムシへの理解が深まっている様子が窺えた。



## チームダンゴムシ 10月下旬

落ち葉を与えたり木の枝を入れてみたことで以前よりダンゴムシが活着している時間が長かった。子ども達も動いている姿を見れることでご飯を食べているのか、今何をしているのか会話しながら観察していた。しかし、中に死んでいるダンゴムシがいることに気付いたためビニールシートの上に土を広げ見てみることに。

白くなり動かないダンゴムシを見つけると、「これ死んでる」と話す子が多かった。また、黒いままでも動かないダンゴムシを見つけると「生きてるのかな」「もしかしたら死んでるのかも」と会話する姿があった。

どうして死んでしまったのか問いかけると、疑問に思う子が多かった中「ご飯が足りなかった」という言葉が出てきた。



## チームダンゴムシ 11月

顕微鏡とプロジェクターを使用し、ダンゴムシの生態やその後の様子を見た。生態に関しては、「背中が光ってる」「ピカピカしている」と話している子がおり、じっくり見れたことで気づきが生まれた。

また、保育者が普段霧吹きを使って土を濡らしていることを伝えたり絵本を通して湿っているところが好きであることを知った子どもたち。顕微鏡を使って見てみると、動いていないダンゴムシの姿から「公園にいたほうが元気に過ごしていたこと」や「捕まえないほうがよかったのでは」と話していた。むやみに捕まえてはいけないことやダンゴムシの生態について学ぶことができた。

ダンゴムシの飼育を通して、子どもがダンゴムシの生態についてしっかり理解できていることや絵本や図鑑から知識を得ていることを知り、興味あることに関しての知識は2歳児でも身に付けられるのだと驚いた。また、ダンゴムシを捕まえることに躊躇したり観察する事も嫌がっていた子もいたが、飼育したり散歩先で関わる時間があることで身近に感じられたのか進んで触ろうとしたり、一緒に探そうとする姿も見られており苦手な子も興味を持てるのだと感じた。今回はグループでわかれていたが、別れたことで他のグループの活動にも興味を示し、子どもの関心の幅が広がったように感じた

まとめ



おはなのなかには  
なにがあるのかな



もってかえりたいな



## チームあさがお

散歩道中は咲いている花に興味を示すことが多い。  
紫陽花の季節が過ぎ、初めての朝顔に興味津々な様子で  
摘もうとしたり、花の中を覗き込む姿が見られたため  
自園で育てることを提案したところ  
育ててみたいと反応を示す。

## スケジュール

- 8月 種まき
- 9月 花が咲いたら収穫  
順次冷凍し保存
- 11月 染め出し、種の収穫

## 準備物

- 朝顔の種
- プランター、土
- 染め出し用の布
- 鍋



# チーム あさがお

## 8～9月

- 8月に種蒔きを行う。
- 花壇を室内から見えるデッキに置いた。
- 種蒔きの時期がズレたことにより、遅い開花となった。花が咲かないことに不思議に思い、水遊び中も懸命に水やりを行い、9月中旬に無事開花。
- その後、毎朝違う色の花が咲くことに気付く子どもたち。「明日は何色かな」「どうして違うのかな」と楽しみにしている様子があった。



## チームあさがお 10月・11月

- 開花し、しおれたアサガオを収穫。  
数が集まるまで冷凍する。
- 開花前と後の花の様子の変化に  
気付く子どももいた。
- 11月、冷凍したアサガオを煮詰め、  
染めだしを行う。  
染めだした布をままごとや人形遊びに  
使用し楽しんでいる。
- 種を収穫。



# チームあさがお まとめ

- あさがおの栽培を通して子どもたちの観察力に驚かされた。特に、花が咲く前後のつぼみの違いに気付いたり、毎朝違う花が咲いたりすることに子どもたちが自ら気付いたりすることは予想していなかったため、子どもなりによく観察していることに気付かされた。
- 更に他の植物への栽培にも興味を持ち、自然と触れ合う楽しさを改めて感じられる有意義な活動になった。